

平成25年9月8日

No 111

〔生き金と無駄金〕

事業上の支出には、「生き金」と「無駄金」又は「プロフィットコスト」と「ロスコスト」があります。「生き金」は事業を成長発展させる為に必要な支出であり、経営に欠かせないものです。「無駄金」は、必要以上の役員報酬であったり、高級車を買ったりして、事業の成長発展に関係せず経営者の趣味であったり、正道でない節税をすることです。

良い経営者は「生き金」と「無駄金」を嗅ぎ分け、お金の使い方が上手く、「生き金」を使い、「無駄金」は徹底的に押えています。悪い経営者は「生き金」と「無駄金」を混同し、「無駄金」なのに「生き金」だと勘違いしていたり、経費削減で「生き金」まで削減し、悪化させています。経営者は「生き金」である「プロフィットコスト」、「無駄金」になる「ロスコスト」を見分ける力を身に付ける必要があります。それぞれの会社の立ち位置、強み、弱み、環境等により「生き金」と「無駄金」は異なります。経営者自身が、若くは、体験し、身に付けていくことだと思います。会社ごとに違いますが、経営者自身が何か「生き金」か「無駄金」か決めることです。交際費、在庫もそれぞれの会社によって「生き金」になったり「無駄金」になったりします。経営者自身が決めるしかありません。私は、自己資本比率が40%とか、自己資本額が1億円とかになるまでは、節税はしない、教育費、売上増になる販売促進費だけは、予算を立てキチンと使う。質素・儉約に努める。これがと思います。そして、会計もしっかりやり、脱税しないことです。税金を払わないと強い会社になりません。また粉飾もしないことです。正しい道を歩むことです。

東京オリンピックが決まりました。嬉しいことです。経済的波及効果があり、経済も良くなりそうですし、何か目標・夢が出来た感じもします。明るくなりそうです。期待。

高林 幸裕